

平成19年3月27日

問い合わせ先  
総合政策局複合貨物流通課  
宮原(25-453)、阿部(57-842)

フォワーダー事業の動向について  
(平成17年度貨物利用運送事業実績等報告)

### 1. 外航海運

①取扱量実績	2,999万トン(223事業者)
②営業収益	3,225億円(208事業者)
③営業利益率(営業収益÷営業費用×100)	103.65%
④貨物の動向	
取扱量実績(160事業者)	2,397万トン(対前年度比4.3%減)

### 2. 国際航空

①取扱量実績	128万トン(73事業者)
②営業収益	6,369億円(64事業者)
③営業利益率(営業収益÷営業費用×100)	102.55%
④貨物の動向	
(1)取扱量実績(宅配便を含む60事業者)	123万トン(対前年度比0.5%減)
(2)宅配便の取扱量 (21事業者)	輸出 48,649トン(対前年度比4.7%増) 輸入 17,223トン(対前年度比21.7%増)

### 3. 国内航空

①取扱量実績	76万トン(54事業者)
②営業収益	1,733億円(54事業者)
③営業利益率(営業収益÷営業費用×100)	104.65%
④貨物の動向	
(1)取扱量実績(宅配便を含む44事業者)	74万トン(対前年度比4.0%減)
(2)宅配便の取扱個数(12事業者)	2,965万個(対前年度比0.9%減)

### 4. 鉄道

①取扱量実績	6,427万トン(700事業者)
②営業収益	2,853億円(455事業者)
③営業利益率(営業収益÷営業費用×100)	100.70%
④貨物の動向	
(1)車扱の取扱量(700事業者)	1,752万トン(対前年度比4.7%減)
(2)コンテナ扱の取扱量(700事業者)	4,643万トン(対前年度比5.1%増)

- (注) 1. ①及び②に係る事業者数は、報告事業者数である。(ただし、鉄道に係る取扱量実績の事業者数については、支店も1事業者として計上している。)
2. ④は、貨物の動向を見るため、平成16年度報告を行った事業者の取扱量を集計したものである。ただし、鉄道貨物については、集計事業者数が異なっている。